

平成 23 年度特定看護師（仮称）養成 調査試行事業実施状況報告（11 月）

1. 報告時期：平成 23 年 11 月末までの実施状況を報告

2. 対象課程数：※ 報告依頼日（平成 23 年 12 月 13 日）までに指定した課程を対象とした。

(A) 修士課程 調査試行事業 6 大学院 10 課程

(B) 研修課程 調査試行事業 1 研修機関 1 課程

3. 報告内容：（別添 1）

○ 教員の要件

専門知識を系統的に教授できるようにとの理由から科目全般に医師が配置されていた。医師以外には看護師や薬剤師、診療放射線技師等が配置され、臨床経験や教育経験等を勘案して教員の要件を設定していた。

○ 評価者・評価方法

実習の評価では試験やレポートに加えて OSCE（客観的臨床能力試験）、技術チェック、口頭試問があった。

○ 臨地実習時のインシデント・アクシデントの発生状況

発生の報告はなかった。

○ 業務試行事業からのフィードバック

該当した全課程がフィードバックを受けていた。

平成23年度 特定看護師(仮称)養成 調査試行事業 実施状況報告

別添1

養成課程		(A)修士	(A)修士	(A)修士			
		大分県立看護科学大学大学院 看護学研究科(老年)	大分県立看護科学大学大学院 看護学研究科(小児)	熊本大学大学院 保健学教育部(精神)			
課程修了時必要単位/時間数		50単位／1,174時間	50単位／1,174時間	44単位／1,050時間			
フィジカルアセスメント 単位数／時間数		6単位／96時間	8単位／156時間	4単位／60時間			
		フィジカルアセスメント学特論 老年アセスメント学演習 生体機能学特論	フィジカルアセスメント学特論 小児診察診断学特論 小児アセスメント学演習 生体機能学特論	アドバンスト・フィジカル・アセスメント 精神看護援助論Ⅰ			
臨床薬理学 単位数／時間数		5単位／80時間	5単位／84時間	4単位／60時間			
		老年臨床薬理学特論 老年薬理学演習	小児臨床薬理学特論 小児薬理学演習	児童・成人精神看護治療論 最新臨床精神薬理学			
病態生理学 単位数／時間数		6単位／110時間	4単位／92時間	4単位／60時間			
		老年診察診断学特論 病態機能学特論 老年疾病特論	病態機能特論 小児疾病特論	最新精神病態生理学 神経生理学特論			
演習 単位/時間数		11単位／176時間	11単位／180時間	2単位／60時間			
実習 単位/時間数		15単位／600時間	15単位／600時間	12単位／540時間			
養成 数	1年次	5人	0人	2人			
	2年次	6人	3人	2人			
実習施設		■病院 ■診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 ■診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()			
教員の要件	フィジカルア セスメントに関 する科目	医師、看護師、基礎系大学教員 専門の診療経験と医師の教育経験を伴った医師から教育を受けることにより、基礎的かつ実践的な医学的知識と技術の習得をねらうため。また、診療に看護の視点からのアプローチを強化するため看護職を担当教員にあてる。	医師(学内)、看護師、基礎系大学教員 専門の診療経験と医師の教育経験を伴った医師から教育を受けることにより、基礎的かつ実践的な医学的知識と技術の習得をねらうため。また、診療に看護の視点からのアプローチを強化するため看護職を担当教員にあてる。	医師、看護師 医師の行うフィジカルアセスメントを看護においてはどのように統合していくのかを検討していくため看護師、専門看護師をいれて構成している。			
	臨床薬理に関 する科目	医師、薬剤師、看護師 専門の診療経験と医師の教育経験をもち、薬学に通じた医師や薬剤師によって臨床薬理の知識と方法を習得するため。また看護のアプローチを強化するため看護職を担当教員とした。	医師、薬剤師、看護師 専門の診療経験と医師の教育経験をもち、薬学に通じた医師や薬剤師によって臨床薬理の知識と方法を習得するため。また看護のアプローチを強化するため看護職を担当教員とした。	医師、看護師 精神科診断と治療の概要、臨床で用いられる薬物動態、薬理作用について医師が講義し、実践の場でどのように診断と治療を統合し活用していくのかを検討するため看護専門看護師が指導している。			
	病態生理学に 関する科目	医師、基礎系大学教員 専門の診療経験と医師の教育経験を伴った医師から教育を受けることにより、基礎的な医学的知識と技術の習得をねらうため。	医師、基礎系大学教員 専門の診療経験と医師の教育経験を伴った医師から教育を受けることにより、基礎的かつ実践的な医学的知識と技術の習得をねらうため。	医師、医療技術科学講座教授 精神疾患の病態について理解するため精神科医と、大脳、神経を専門とする教授が担当。			
	演習・臨床実習	医師、薬剤師、臨床放射線技師、看護師 専門の診療経験と医師の教育経験をもち、薬学に通じた医師や薬剤師によって臨床薬理の知識と方法を習得するため。また事例に対する看護のアプローチを強化するため看護職を担当教員にあてる。	医師、薬剤師、看護師 専門の診療経験と教育経験を伴った医師や薬剤師から教育を受けることにより、基礎的かつ実践的な医学的知識と技術の習得をねらうため。また、看護の視点からのアプローチを強化するため看護職を担当教員にあてる。	医師、看護師、臨床心理士 精神科診断、薬剤の選択と処方、治療計画について医師から指導を受け、看護の視点でどう統合するのかを専門看護師が行っている。			
評価	フィジカルア セスメントに関 する科目	医師、看護師 筆記試験、OSCE、レポート、プレゼンテーション等		医師、看護師 筆記試験、OSCE、レポート、プレゼンテーション等	医師、看護師 テスト、口頭試問		
	臨床薬理に関 する科目	医師、薬剤師、看護師 筆記試験、レポート、プレゼンテーション		医師、薬剤師、看護師 筆記試験、レポート、プレゼンテーション	医師、看護師 テスト、口頭試問		
	病態生理学に 関する科目	医師、基礎系大学教員 筆記試験		医師、基礎系大学教員 筆記試験	医師、医療技術科学講座教授 テスト、口頭試問		
	演習	医師、薬剤師、臨床放射線技師、看護師 レポート、プレゼンテーション、実技等		医師、薬剤師、看護師 筆記試験、レポート、プレゼンテーション、実技等	看護師、臨床心理士 テスト、口頭試問		
	臨床実習		実習前	実習後	実習前	実習後	実習前
		医師、看護師等 筆記試験、OSCE、口頭試問	医師、看護師 筆記試験	医師、看護師等 筆記試験、OSCE、レポート、 技術チェック、口頭試問	医師、看護師 筆記試験	医師、看護師 レポート、口頭試問	医師、看護師等、臨床心理士 筆記試験、レポート、技術 チェック、口頭試問
臨床実習時の インシデント・アクシデント		なし		なし		なし	
業務試行事業からの フィードバック		あり		該当なし		該当なし	

注 フィジカルアセスメント、臨床薬理学、病態生理学、演習科目は再掲科目を含む。

養成課程		(A)修士	(A)修士	(A)修士				
		国際医療福祉大学大学院 医療福祉学研究科(慢性期)	聖路加看護大学大学院 看護学研究科(老年)	聖路加看護大学大学院 看護学研究科(小児)				
課程修了時必要単位/時間数		44単位／1,080時間	36単位／860時間	38単位／930時間				
フィジカルアセスメント 単位数／時間数		4単位／60時間	2単位／30時間	4単位／90時間				
		フィジカルイグザミネーション 診察・診断学	フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント 小児看護学演習Ⅰ：ヘルスアセスメント				
臨床薬理学 単位数／時間数		6単位／90時間	2単位／30時間	2単位／30時間				
		臨床薬理学 疾病管理学Ⅰ 疾病管理学Ⅱ	臨床薬理	臨床薬理				
病態生理学 単位数／時間数		4単位／60時間	4単位／60時間	6単位／90時間				
		病態機能学 臨床栄養学／運動療法学	病態生理学 診断・治療学	病態生理学 診断・治療学 小児看護学特論Ⅳ：小児病態治療学				
演習 単位/時間数		4単位／60時間	6単位／180時間	4単位／120時間				
実習 単位/時間数		14単位／630時間	8単位／330時間	8単位／360時間				
養成 数	1年次	12人	1人	2人				
	2年次	8人	0人	3人				
実習施設		■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 ■診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション ■その他(複合型医療施設)				
教員の要件	フィジカルアセスメントに関する科目	医師 内容に応じた科目を教授することができる臨床医系教員が担当している。本学の臨床教授、准教授および講師を中心として医師としての臨床経験はおおむね15年以上くらいを目安としている。	次年度受講する。 担当教員が変更となる予定だが、詳細は未定。 依頼する教員は、単位認定ができ指導教員として適任である人材。	医師、看護師、ナースプラクティショナー 経験豊かで、幅広く小児のフィジカルアセスメントについて教授できる医師。米国及び聖路加国際病院でアダルトナースプラクティショナーとしての勤務経験があり、成人のフィジカルアセスメントにつき教授できる。				
	臨床薬理に関する科目	医師、薬剤師 内容に応じた薬学部教授と臨床医系教員が担当している。医系教員は本学の臨床教授、准教授および講師を中心としている。医師としての臨床経験はおおむね15年以上くらいを目安としている。	医師、薬剤師、看護師 看護師であるが、薬学博士を取得しているため本学大学院臨床薬理の担当者に最適と考えて単位認定者となっている。ただし、他大学の薬剤部教授・准教授各1名及び臨床の医師の講義を実施している。	医師、薬剤師、看護師 看護師であるが、薬学博士を取得しているため本学大学院臨床薬理の担当者に最適と考えて単位認定者となっている。ただし、他大学の薬剤部教授・准教授各2名及び臨床の医師の講義を実施している。				
	病態生理学に関する科目	医師 学部、大学院で病態機能に関する教育を担当する本学の大学院教授。また本学の臨床教授で科目内容に関連した特に循環器と代謝内科の専門医を中心として配置している。	医師、看護師 経験豊富であり病態生理について幅広く講義できる。	医師、看護師 経験豊富であり病態生理について幅広く講義できる。				
	演習・臨地実習	医師 演習で効果的に教育トレーニングするためには、臨床で診療を行っている臨床教員であることが重要である。担当者の選定には、臨床教授の推薦等も参考になっている。実習は臨床研修医の指導を行える医師が担当することで教育の質を担保している。	医師、看護師 認知症の診断、治療、BPSDの治療について修得するため医師が担当。高齢者の医療安全について修得するため医療安全管理者が担当。院生が老年看護の高度実践力を身につけられるために看護管理者、専門看護師が指導にあたる。	医師、看護師 小児科専門医、小児科部長・医長職にあり外来診療経験も豊富である。外来診療に関わり経験豊富、小児看護の専門的な視点より指導できる。				
評価	フィジカルアセスメントに関する科目	医師 筆記試験、OSCE		担当教員による技術評価の予定。	看護師、ナースプラクティショナー 課題、実技試験、レポート			
	臨床薬理に関する科目	医師、薬剤師 筆記試験		医師、薬剤師、看護師 レポート	医師、薬剤師、看護師 レポート			
	病態生理学に関する科目	医師 筆記試験		医師、看護師 レポート、プレゼンテーション	医師、看護師 レポート、プレゼンテーション			
	演習	医師 OSCE、技術の習得状況等		看護師 実習内容(態度、記録物等)	医師、看護師 レポート、課題研究			
	臨地実習	実習前		実習後		実習前		実習後
医師、看護師 OSCE、口頭試問		医師、看護師等 筆記試験、レポート、口頭試問		医師、看護師 レポート、技術チェック		医師、看護師 レポート、技術チェック		
臨地実習時の インシデント・アクシデント		なし		なし		なし		
業務試行事業からの フィードバック		あり		該当なし		該当なし		

養成課程		(A)修士	(A)修士	(A)修士
		聖路加看護大学大学院 看護学研究科(精神)	聖路加看護大学大学院 看護学研究科(周麻酔期)	東京医療保健大学大学院 看護学研究科(クリティカル)
課程修了時必要単位/時間数		32単位/720時間	44単位/960 時間	53単位/1,500時間
フィジカルアセスメント 単位数/時間数		2単位/30時間	2単位/30時間	6単位/150時間
		フィジカルアセスメント	フィジカルアセスメント	診察・診断学特論(包括的健康アセスメント) フィジカルアセスメント学演習 臨床推論
臨床薬理学 単位数/時間数		2単位/30時間	2単位/30時間	2単位/30時間
		臨床薬理	臨床薬理	臨床薬理学特論
病態生理学 単位数/時間数		4単位/60時間	4単位/60時間	3単位/75時間
		診断・治療学 病態生理学	病態生理学 診断・治療学	人体構造機能論 クリティカル疾病特論
演習 単位/時間数		6単位/180時間	10単位/300時間	11単位/330時間
実習 単位/時間数		6単位/270時間	6単位/270時間	14単位/630時間
養成 数	1年次	3人	3人	21人
	2年次	1人	1人	20人
実習施設		□病院 □診療所 □老人保健施設 ■訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()
教員の要件	フィジカルアセスメントに関する科目	ナースプラクティショナー 上級実践看護師としてフィジカルアセスメントの実践と指導・ 育成の経験が豊富にあるため。	医師、ナースプラクティショナー 麻酔前提とした全身評価法を学ぶため麻酔科専門医。日本の 看護師教育に欠けている臨床的身体評価を実践している 立場での指導を受けるため。	医師、検査技師、看護師 面接技術の教授や臨床推論については、総合的に患者をみる 総合内科医、救命救急医が担当する。初期研修医の指導 経験も要件としている。検査結果の解釈に必要な基礎的知識 について臨床検査技士の資格を持つ大学教員が担当する。
	臨床薬理に関する科目	薬剤師、看護師 各専門分野における高度の薬理学を習得し、診断、治療に おいて医師や他の専門職者と協働する能力のある専門的な 看護師を養成するために、その指導が行えかつ実践している 臨床薬理の専門家であるため。	医師 麻酔に重要な生命維持臓器の薬理学を学ぶために、臓器別 の臨床薬理学に高い知識を有する医長クラスの医師。臨床 麻酔に特化した病態看護、臨床薬理、全身管理を学ぶため 高い知識と技能を有する麻酔科専門医。	医師、薬剤師 到達がアドバンスレベルのため、薬理学に精通し臨床経験 のある医師、薬剤師が担当している。また臨床において化学 療法、抗菌薬等の薬物療法の経験を豊富にもつ医師が教授 することで、学生の知識の広がり深まりが持てると考えて いるため。
	病態生理学に関する科目	医師 症状、所見から病態生理の推測、推移の予見と治療の病態 生理学的意義を理解できるようになり、医師と協働してこれら を行う能力を養うため、病態生理に関する指導と解説に卓越 した医師の講義を行っている。	医師 臨床麻酔に特化した病態看護、臨床薬理、全身管理を学ぶ ため高い知識と技能を有する麻酔科専門医	医師、医学部で解剖学を教授している教員 解剖学がフィジカルアセスメント、画像診断等を理解する土 台となるために、医学部の解剖学の教員が担当している。各 疾病の専門の医師に教授してもらうことで、より深く学生が学 ぶことができることを目指している。
	演習・臨地実習	看護師 精神科訪問看護の状況、対象者の生活状況の全体的評価 のもとに薬物療法の調整を看護の視点から行うため。	医師 臨床麻酔、集中治療の病態看護、臨床薬理、全身管理を学 ぶため高い知識と技能を有し、加えて高い麻酔の臨床能力 と、生体シミュレータ教育の経験を持った麻酔科専門医、日 本麻酔科学会認定指導医。	医師、看護師 実践的な演習を行うために医師が担当している。看護教員 は看護の視点からの助言および技術指導を行っている。
評価	フィジカルアセスメントに関する科目	看護師、ナースプラクティショナー 課題、実技試験、レポート	レポート、実技試験	医師、臨床検査技師、看護師 筆記試験、レポート、プレゼンテーション
	臨床薬理に関する科目	医師、薬剤師、看護師 レポート	筆記試験、レポート、プレゼンテーション、高機能シミュレータ での実習、実技評価	医師、薬剤師 筆記試験、レポート
	病態生理学に関する科目	医師 レポート、プレゼンテーション	筆記試験、プレゼンテーション、高機能シミュレータでの実習	医師、医学部で解剖学を教授している教員 筆記試験、レポート
	演習	看護師 レポート、面接指導	PALSの資格取得、シミュレータによる演習	医師、看護師 筆記試験、レポート、実技試験
	臨地実習	実習前 医師、看護師 レポート、口頭試問	実習前 なし	実習前 医師、看護師 筆記試験、OSCE
実習後 医師、看護師 レポート、口頭試問		実習後 医師、看護師 レポート、口頭試問	実習後 なし	実習後 医師、看護師 筆記試験、レポート
臨地実習時の インシデント・アクシデント		なし	なし	なし
業務試行事業からの フィードバック		該当なし	該当なし	該当なし

養成課程		(A)修士	(B)研修	
		東北文化学園大学大学院 看護福祉学研究科(周術期)	日本看護協会 看護研修学校(皮膚・排泄ケア)	
課程修了時必要単位/時間数		50単位／1,350時間	13単位／315時間	
フィジカルアセスメント 単位数／時間数		2単位／30時間	1単位／15時間	
		フィジカルアセスメント論	アドバンスト創傷アセスメント	
臨床薬理学 単位数／時間数		2単位／30時間	2単位／30時間	
		臨床薬理学	臨床薬理学Ⅰ、Ⅱ	
病態生理学 単位数／時間数		4単位／60時間	2単位／30時間	
		臨床生理学 外科医療病態診断学特論	病態学特論 創傷病態生理学	
演習 単位/時間数		8単位／240時間	2単位／60時間	
実習 単位/時間数		16単位／720時間	3単位／135時間	
養成数	1年次	9人	6人	
	2年次	0人		
実習施設		■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	■病院 □診療所 □老人保健施設 □訪問看護ステーション □その他()	
教員の要件	フィジカルアセスメントに関する科目	医師、看護師 十分な臨床経験および教育経験に裏付けられた基本的な臨床診察手技を系統的に教授できる能力が必要である。また特に感覚器の診察に於いては専門的な経験が必須である。		医師、看護師 創傷患者のフィジカルアセスメントに必要な臨床技術や判断能力の実績を重要とするため、技術のエビデンスとその評価、及びその実践と教育能力を要するため。
	臨床薬理に関する科目	医師、薬剤師 十分な臨床経験および教育経験に裏付けられた基本的薬物療法から最新の臨床薬物療法を系統的に教授できる能力が必要である。また薬物動態については特に教育経験に優れた薬剤師の系統的な講義も必要である。		医師、薬剤師、弁護士 創傷管理を行う上で必要な薬剤の決定等の実践能力を要するため、臨床現場での薬剤決定に必要な知識や実践を教育的に指導する能力を要するため。
	病態生理学に関する科目	医師 十分な臨床経験および教育経験に裏付けられた系統的に教授できる能力が求められる。病理学、解剖学の専門的経験も求められる。		医師 患者のフィジカルアセスメント、病態および局所アセスメントに必要な臨床技術や判断能力の実績を重要とするため。
	演習・臨地実習	医師 十分な臨床経験および教育経験に裏付けられた系統的に教授できる能力、及び病院での最新外科医療についての指導・教授能力が求められる。		医師、看護師 創傷管理に必要な臨床技術や判断能力の実績を重要とするため、技術のエビデンスとその評価、及びその実践と教育能力を重要とするため。
評価	フィジカルアセスメントに関する科目	医師 筆記試験、実技試験		医師 レポート、口頭試問
	臨床薬理に関する科目	医師 筆記試験、口頭試問		医師、薬剤師 筆記試験、レポート、口頭試問
	病態生理学に関する科目	医師 筆記試験、口頭試問、実技試験		医師 筆記試験、レポート
	演習	なし		医師、看護師 技術試験、レポート、口頭試問
	臨地実習	実習前	実習後	実習前
医師、看護師 筆記試験、OSCE、レポート、 技術チェック、口頭試問		医師、看護師 筆記試験、OSCE、レポート、 技術チェック、口頭試問	医師、看護師 筆記試験、レポート、技術 チェック、口頭試問	医師、看護師 レポート、技術チェック、口頭 試問
臨地実習時の インシデント・アクシデント		なし		なし
業務試行事業からの フィードバック		該当なし		あり